

第17回 法人会全国女性フォーラム「愛媛大会」の報告

「愛（え）顔咲く マドンナたちの新時代

～ともに拓こう 媛（ひめ）の国から～」

伊野法人会女性部会 部会長 谷岡 芳子

2023年4月13日（木） アイテムえひめ にて

全国女性フォーラムが開催され、全国から1800名超の女性部会員が集いました。

高知県連からは、27名参加

第1部 記念講演＜第一部＞

「句会ライブ」 俳人 夏井 いつき氏

松山市在住 8年間中学校国語教諭の後 俳人へ転身

俳句集団「いつき組」組長 帝塚山学院大学客員教授

創作活動に加え、俳句授業「句会ライブ」、「俳句甲子園」の創設にも携わるなど

テレビ「プレバト」やラジオでも幅広く活躍中

第一部では、

俳句の作り方（俳句の約束事・五七五のリズム、季語を入れるなど）コツを教えてください

お題「OK！ OK？」

参加者が5分で一句作りました。式典の間 夏井先生が目通ししました。

第2部 大会式典

- ・国歌斉唱、歓迎の挨拶、女性部会スローガン唱和

「わたしたち法人会女性部会は 法人会組織一員として 研修、交流を通じた
部会員の資質向上と社会への貢献をめざす法人会活動の充実に努めます」

- ・来賓挨拶

国税庁次長、全法連会長、愛媛県連会長、愛媛県知事、松山市長
等々頂きました。

全法連女連協会長 酒井 喜代子氏

法人会活動の充実・活性化への寄与に努めながら、税の啓発活動や地域社会への貢献活動に

取り組んできました。女性経営者として自己啓発による資質向上を図るとともに多様化する法人会活動の担い手としても大きな役割を果たしています。

特に、女性部会独自の取り組みである「税に関する絵はがきコンクール」は、平成24年度から国税庁にご後援いただき、ほぼすべての会が実施する女性部会の活動の大きな柱のひとつとなりました。毎年数多くの子ども達が、租税教育で学んだこと感じたことを絵はがきに描いてくれることは大きな喜びであります。

昨年度より「食品ロス」に対する取り組みを開始いたしました。ひとりひとりの「心がけ」が重要になる取り組みです。「私たちに何ができるのか」を考えながら真剣に取り組んでいきましょう。

私たち女性部会会員が、公益性の高い活動に取り組み社会に貢献すること、地域の発展や活性化に寄与することがどれだけ大切なことかをお話されました。

愛媛県法人会女連協会長 渡部 京子氏

愛媛県には、それぞれの地域に特色ある豊かな自然や食、歴史・文化等の観光資源があります。北側には、瀬戸内海の美しい島々を繋ぐ海の道「しまなみ海道」があり自転車で橋を渡る「サイクリストの聖地」として国から「ナショナルサイクルルート」に指定され人気観光地となっています。県都松山には、開湯三千年の歴史を誇る「道後温泉」や近代俳句の祖としても名高い正岡子規など文才を育んだ文化と歴史があり、道後地区を中心に自由に投句できる「俳句ポスト」が設置されております。南西側には、宇和海に面したリアス式海岸に日本一を誇る収穫量の柑橘の「紅まどんな」や「甘平」、間もなくすると10年かけて開発したデルフィニウム「さくらひめ」が出荷されます。

愛媛県内8つの女性部会は、「租税教育」や「税に関する絵はがきコンクール」はもちろん、各地域それぞれの特性を活かした事業を企画し地域に密着した社会貢献活動と地域の活性化に資する事業をお互い高めあい女性のパワーこそが、地域の活力を生み出せると確信して、今後も活動を発展させていけるよう努めていきたい

また、本日の女性フォーラムが、全国の部会員との交流を通して絆をより一層深めていただく有意義な大会となりますようにお祈り申し上げます。

第3部 記念講演＜第二部＞

「講 評」 俳人 夏井 いつき氏

第二部での講評

1,500の作品の中から良かった作品を何点か読み上げて、講評してくださりました。

どの作品の五七五の中に色んな想いが感じられ胸が熱くなり、俳句の奥深さとおもしろさを経験することができました

上位三句の内

「これよりは 此処の水飲む 初ざくら」

「ぜっけんを つける一針 初桜」
会場にいる会員さんの拍手が一番多かった句
「春の波 決断はいつも一人です。」

作られた方は、会長になるのをとても悩んでたけど、決断されたとおっしゃっていました。

第4部 懇親会

開宴の挨拶、乾杯と続きアトラクション（野球拳）で賑やかに始まりました
当地グルメの折り弁当をいただきました。他県と方とはまだコロナ禍なのであまり交流はできませんでしたが、高知県他支部の方々との親睦を深めることができました。
次回開催は、広島県です。